



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
7/20 (月)				海の日			
7/21 (火)	▲ 600	+ 19,100	+ 18,500	国庫短期証券発行償還 (3M・1Y)	気候変動 社債等買入 国債補充供給 ▲101,600 ▲100 +1,100	気候変動 +139,800	
7/22 (水)	▲ 500	+ 1,000	+ 500		共通担保 ▲ 8,000		日：貿易収支 (6月)
7/23 (木)	▲ 500	▲ 3,000	▲ 3,500	国債発行 (40年)			欧：ECB 政策金利発表
7/24 (金)	▲ 500	+ 12,000	+ 11,500	各種財政資金の支払い			日：CPI (6月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆9,500億円減少の432兆8,100億円から始まった。その後、国債発行や税揚げ等の要因により増減し、17日は431兆6,600億円（速報）で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は週初、0.977%から始まり、その後一部金融機関による試し取りが行われたことから、0.977%~0.981%のレンジで推移した。
ターム物は1W~3W物0.981%~1.150%のレンジ、1M~3M物1.050%~1.240%のレンジで出合いが見られた。
来週の予定は、国内では22日に貿易収支（6月）、24日にCPI（6月）、海外では23日にECBの政策金利発表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.950 ~ 0.978
1M	1.05 ~ 1.10
2M	1.10 ~ 1.15
3M	1.15 ~ 1.25
6M	1.30 ~ 1.50

<レボ>

足許GCは週を通して1.000%~1.005%の狭いレンジでの出合いとなった。買い入れオペや短国の発行の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。
SC取引は2年470~482回債、5年155~185回債、10年356~372、378~381回債、20年110~130回債、30年86~90回債などに引合いが見られた。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.90台
CP 3M (a-1+)	1.1 ~ 1.2

<CP>

今週の入札発行総額は2兆1,410億円で、週間償還額の1兆8,155億円を上回った。発行残高は、先週末時点の25兆8,294億円から、7月16日時点で26兆2,997億円へと増加した。発行市場では、ガス業・小売業・建設業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で1.0%台から1.1%台、3ヶ月物で1.1%程度から1.2%台と、幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆2,000億円となっている。発行市場は、営業日数が少ないものの、大型償還に合わせた安定的な調達ニーズにより、償還額と同程度の発行が見込まれる。発行レートは、次の利上げ時期を見極めようとする動きから、引き続き水準を探る展開となるだろう。

<TDB>

16日の1Y（第1394回債）の入札は、最高落札利回り1.2168%（前回債1.1645%）、平均落札利回り1.2066%（前回債1.1583%）となった。
17日の3M（第1395回債）の入札は、最高落札利回り0.9695%（前回債0.9544%）、平均落札利回り0.9618%（前回債0.9393%）となった。
来週の入札は24日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。